



# 八重ヤマブキ

八重ヤマブキは、小さな黄色の花弁が幾重にも重なり八重咲きする豪華な花姿が魅力的な品種です。一重咲きの花と違い、雄蕊(おしべ)が花弁化しており、雌蕊(めしべ)も退化しているため、秋に果実が実る事はありません。

晩春に咲く黄金色の花が美しく、万葉集の歌に詠まれるほど古くから親しまれており、春の季語にもなっています。

季節の花⑥ 八重ヤマブキ

## (株)中曽根造園 社外報

排水性が良く酸素を豊富に含む土は赤く、排水性が悪く酸素が不足がちな土は灰色～青色になります。排水性が不良な土では、多くの植物が**酸欠状態**となり根に障害を受けます。



植物は、水とともに水に溶けた酸素も吸収しますが、水に溶ける酸素は少なく、それだけでは必要とする量をまかないきれません。土壌中の空間からも酸素を取り込みます。



つまりすき間の量とその中の気相と液相が適正に保たれている事が大切になります。



## 土のはなし

### ⑥ 酸素は大切

## 【衣替え】

6月1日を目安に冬服から夏服へと替える風習です。衣替えは、平安時代に中国から伝わった習わしです。宮中行事として、年に2回、衣を替えるようになりました。



# 6月

## 2024



名の謂われ

# 紫陽花

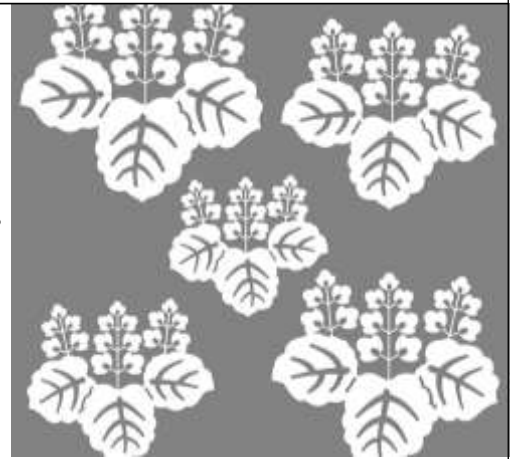
読み→『あじさい』

アジサイは昔、「あづさ卉(あぢさ卉)」といました。「あづ(あぢ)」は「集める」の古語、「集む」が転じたものです。次に、「さ卉」は「真藍(さあい)」という、色の「藍」に、意味を強める接頭辞の「さ」をつけた言葉を省略したものです。つまり、藍色の花が集まった様子から、アジサイの名はつけられたと考えられています。漢名の「紫陽花」は、唐の詩人、白居易の漢詩に由来します。

## 植物図案⑥

### 桐【きり】

ゴマノハグサ科の落葉広葉樹である桐の花と葉をかたどった文様。桐は伝統的に神聖な木とみなされ、家紋や紋章のデザインとして数多く取り入れられてきました。桐紋(きりもん)、又は桐花紋(とうかもん)と呼ばれ、室町幕府では小判などの貨幣に刻印されました。



以来、室町幕府のほか皇室や豊臣政権などが用いて江戸時代になると庶民から侍、大名まで使用層は広がり十代家紋の一つとなり、特に庶民の間で五三桐が普及しました。現在では五七桐花紋は日本国政府の紋章として用いられています。五百円硬貨の表も桐です。

## ◆商品紹介◆

■ インターホンカバー付き表札

定価(税抜)：¥53,000

訪れる人が最初に触れるインターホン。  
だからこそ、もっとオシャレにスマートに



■ ハングングバードフィーダー ¥7,500

材質：本体/耐熱ガラス

ケーブル/ラバーコーティング

サイズ：本体/約φ20xD12cm ケーブル約85cm